



公益社団法人 横浜歴史資産調査会 発行 日々の暮らしと横浜の歴史資産を一步近づける

# ヨコハマヘリテイジスタイル



神奈川県立歴史博物館(旧横浜正金銀行本店、国指定重要文化財)の奥にガラス張りの損保ジャパン日本興亜横浜馬車道ビル (写真: 米山 淳一)

## 馬車道に面する市認定歴史的建造物群

明治11(1878)年8月に設立された第百国立銀行は業績が目覚ましかったこともあってか、横浜本町に明治13年7月、出張所を設けた。更に2年後にはこれを支店に昇格させている。その後川崎銀行を合併して、昭和2(1927)年には川崎第百銀行となった。

上掲写真の奥に写るガラス張りの建物は「損保ジャパン日本興亜横浜馬車道ビル」だが、このビルの原型は、大正11(1922)年に建てられたものである。川崎第百銀行、三菱銀行、日本火災海上保険とビルの所有者は目まぐるしく変わったが、今なお横浜の代表的建造物として市民に親しまれている。

偶然といえるかどうか私には明確な資料がある訳ではないが、このビルの設計者は矢部又吉といい、横浜出身でドイツに建築学を学び設計者となったというのが、当該建物を道路一本距てた旧横浜正金銀行本店本館(現・神奈川県立歴史博物館/明治37年・1904年)の設計担当者妻木頼黄(まき よりなか)の弟子であったという。

県立歴史博物館の向かい側、当該ビルの斜め向かいの馬車道大津ビル(昭和11年・1936年)はいずれも横浜市の認定歴史的建造物だが、その他にも元第一銀行横浜支店、元安田銀行横浜支店(後・富士銀行)は、それぞれ馬車道通りに面している。

開港当時、この周辺の道路は、ほとんど海岸線と並行してつくられており、海岸通、南・北仲通、弁天通などがあったが、これらと直行する道路は乏しかった。

外国からの寄港船客は、上陸後タクシーならぬ馬車に乗って市中に出かけたが、その折、直行する道路が乏しいことに不満を洩らしていた。そこで各国外交官は当局に道路の改良を申し入れ、結果として馬車道が拡幅、拡充されたようだ。

馬車が通る道すなわち馬車道に面して銀行など金融機関、さらにはスーベニア(高級土産品店)などが立ち並ぶに至ったのである。

横浜市内に数ある商店街の一つとして、あるいは代表選手として現在も賑わいをみせる商店街となっている。

(公益財団法人横浜歴史資産調査会 監事 中村 實)



# 横浜、よこはま、ヨコハマ、YOKOHAMA

## —横浜を初めて訪れる人のために—

公益財団法人横浜歴史資産調査会 監事 中村 實



復元された「象の鼻」



鈴木家長屋門 (横浜市認定歴史的建造物)

「横浜ってどんなところ?」と尋ねられたとき、あなたはどのように説明しますか。人口日本一の都市、開港五都市の1つ、都市としての歴史はとても短い、外国人の姿が街中に溢れている、街並みごとにかくハイカラ、瓦葺きの住居は少ない、海はあるが川の流れがほとんど見えない……、いずれも横浜らしい説明ですね。

私の場合は当然 TPO に応じた説明をいくつか用意しています。最も大雑把な場合は、横浜を4つの地域に分類して相手の興味を引き出しながら説明を進めます。4つの地域とは、漢字の「横浜」、平仮名の「よこはま」、片仮名の「ヨコハマ」、それに英字の「YOKOHAMA」という4区分です。

- (1) 横浜: 開港期に埋め立てをしたり、陸地にした地域——例えば、中区、西区、南区の一部
- (2) よこはま: 東海道五十三次沿いにあつて江戸時代からの街——例えば、鶴見区、神奈川区、保土ヶ谷区、戸塚区。東海道筋ではないが比較的歴史が古い、磯子区、金沢区など
- (3) ヨコハマ: 開港後あるいは、大正、昭和、平成になって市街地化している地域——港北区、港南区など
- (4) YOKOHAMA: そして(1)～(3)以外の区政施行も新しく人口が急増した地域などが特徴です。

横浜に初めて足を踏み入れたという人にとっても簡単な地図を用いて上記のような説明をすれば、割に容易に「横浜ってど

んなところ?」が理解できるのではないのでしょうか。

県境、市町村境などが定められる前には、横浜は武蔵国、相模国の両方にまたがっていましたが、こういった説明でもある程度は理解できるでしょう。

外国や日本の他の都市と横浜を比較すると、大きな違いに気づくことは、横浜にはほとんど河川らしい流れが無いことでしょう。無論、河川が無いわけではありませんが、動力船が河面を滑って行く光景はほとんど見かけません。川幅が狭いことも横浜の特長かもしれません。

これと比較すると海岸線の距離はかなり長大です。これは、特に第二次世界大戦後、横浜は夜を日に継いで埋め立てに注力しましたから、海岸線が延びたのです。しかし残念なことにその結果、自然の海岸線は減少して、磯や砂浜はほとんど無くなりました。

さて、横浜に住んでいても意外に横浜のことを知らない浜っ子(横浜生まれの人)がいます。初めて訪れた人に、そのいくつかをお教えいたしましょうか。

どこの港町、特に外国船が帰港するような港湾都市には必ず外国人墓地が大小は別として港の眺められるような一等地にあります。そして、横浜は港の大きさもあってか、4カ所に墓地があります。これこそ意外に知られていません。横浜外国人墓地(中区山下町96)、根岸外国人墓地(中区仲尾台7)、中華義



旧柳下邸 (横浜市指定有形文化財)



新川家住宅主屋 (横浜市認定歴史的建造物)



荘(中国人専用墓地・中区大芝台7)、英連邦戦死者墓地(保土ヶ谷区狩場町238)、以上4つの墓地があります。春彼岸、お盆、秋彼岸に日本人は墓参りをしますが、そのような光景は見かけません。

ところで昨今、大学入試についていろいろ議論されていますが、横浜には、現在4年制、2年制を含め大学が約40校ありますが、第二次世界大戦終結頃までは、1校もありませんでした(学部、学科だけという例外を除く)。その代わり、国立の高等工業高校、高等商業高校、私学の専門学校などがありました。これは「実学」が重視された結果だと私は思います。無論これにはさまざまな背景や理由があるのですが、事実として理解しておきましょう。

横浜の総鎮守であり、初詣には市内最多数の参拝客を数える伊勢山皇大神宮も創建は明治3年に伊勢神宮を勧請した神社であり、日本の多くの大都市とは全く異なっています。

横浜市民の愛唱歌「横浜市歌」は、開港50周年を記念した当時の文豪森鷗外の作詩によるものであり、すばらしい歌といえましょう。

これらの他、鉄道発祥の地、国歌「君が代」が初めて演奏されたなど、「横浜はじめて物語」という書物があるほど、他の都市とは異なるモノ、コトがあります。

「横浜ってどんな都市?」と尋ねられたとき、簡潔に説明してあげて下さい。



横浜外国人墓地



黄金町界隈の町並み

(文中写真:米山 淳一)

## 旧ライジングサン石油横浜本社ビル 回転扉歴史解説サインの制作

中区山下町58番地の旧ライジングサン石油横浜本社ビル跡に建つマンション「エクステ山下公園」管理組合から、同マンション1階エントランス部分に保存されている回転扉の歴史解説サイン制作について依頼を受けました。吉田鋼市副会長監修のもと、制作を行い、このほど設置が完了しました。歩道に面しているサインですので、是非一度ご覧下さい。



(文・写真:島倉 聖朗)

### ヨコハマヘリテイジは免税団体です

歴史的資産の保存活用を推進するために、皆様のご寄付をお願いしております。ご寄付を頂いた方には、免税証明を発行いたします。確定申告の際に控除となります。

## ヘリテイジにご寄付をお願いします

ヨコハマヘリテイジでは、横浜をはじめとした国内の歴史的資産の保存活用に向けて、皆様のご寄付をお願いしております。各地に眠っている歴史的資産を地域の宝、日本の宝、世界の宝として、将来に渡り受け継いでいくために、皆様方のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

ご寄付を頂いた方には、個人の皆様には所得税等の控除に使える免税証明、法人の皆様には法人税の控除に使える税額控除証明を発行いたします。また、金額に応じた記念品等の贈呈も行っております。

## 2018年度ご寄付して下さい下さった皆さま ありがとうございました!!

|                               |          |
|-------------------------------|----------|
| 横浜野毛商業協同組合                    | 100,000円 |
| 宮村忠                           | 90,000円  |
| 株式会社キー・プロダクション                | 50,000円  |
| 株式会社ザ・ワークス                    | 50,000円  |
| 特定非営利活動法人横浜ロケーションコーディネイト      | 50,000円  |
| 株式会社ピクト                       | 50,000円  |
| 多田真太郎                         | 30,000円  |
| 株式会社トボガン                      | 10,000円  |
| 勅使川原祐実                        | 10,000円  |
| 木阪尚志                          | 10,000円  |
| 廣濱満智子                         | 6,000円   |
| 歴史を活かしたまちづくりセミナーVol.41 参加者 有志 | 5,000円   |
| ピアノが案内する横浜の歴史とまちVol.7 参加者 有志  | 2,620円   |
| ヨコハマヘリテイジ・セミナー2019 参加者 匿名     | 680円     |
| (敬称略)                         |          |



## トピックス

### ヨコハマヘリテイジ・セミナー2019「開港都市の町並み保存のダイナミズム」 3月22日 横浜市開港記念会館で開催



右から、菅氏、柿森氏、浜田氏、瀬尾氏、後藤氏、米山

これを受け、当公益社団（ヨコハマヘリテイジ）では、市民、行政、専門家等と勉強会を行うこととしました。

#### 俣野別邸でのセミナー

公益財団法人横浜市緑の協会から受託している歴史的建造物への運営、管理等のアドバイザー業務の一環として俣野別邸（戸塚区）職員等を対象にセミナーを行っています。今年度は、専門家や当公益社団役員等で4回行いました。内容は、菅孝能氏（山手総合計画研究所代表取締役）、吉田鋼市副会長、米山淳一常務理事、水沼淑子理事がそれぞれ俣野邸の見方、俣野邸の魅力、開港都市の歴史を生かしたまちづくり、俣野邸と旧モーガン邸と題して行いました。3月14日は、市民公開講座とし、小沢朝江社員が湘南の別荘建築に関して講義を行い好評でした。



講演する小沢朝江先生

### 国際シンポジウム・台湾における近代化遺産活用の最前線講演会 3月13日 東京文化財研究所で開催



黄俊銘先生からいただいた素晴らしいテキスト

「華山芸術文化特区」と位置づけ、芸術文化活動の拠点として活用が行われています。この結果、日本時代の歴史的建造物は保存され、敷地内は、公私の資本が投下され保存活用事業とコラボする形でアミューズメント事業を行う先進事例となりました。我が国では見られないダイナミックな実践事業に会場から注目を集めました。

（文・写真：米山 淳一）

近年、台湾では近代化遺産や歴史的町並みの保存が積極的に行われ成果を上げています。これらに関する事例発表が東京文化財研究所主催で行われました。

当日は、台湾から黄俊銘氏（中原大学教授）を含め5名の皆様が登壇、現状を披露しました。黄先生からは、台湾の文化財保存活用の制度や仕組みに関して詳細に説明があり、特に近代化遺産としての鉄道遺産の保存活用事例が注目を集めました。高速新線の開業で廃線となった通称旧山線と呼ばれる路線の駅舎、橋梁、隧道他の近代化遺産を含めて路線を丸ごと保存活用する計画や台北市内の鉄道工場をそのまま鉄道博物館として保存活用する事業が紹介されました。

また、広大な旧酒造会社工場跡を所有者の台湾省専売局は、台湾省政府文化処を介しNPO「中華民国芸術文化環境改造協会」に委託し

【ヨコハマヘリテイジスタイル 2019春号】 平成31年3月31日 発行

公益社団法人 横浜歴史資産調査会（ヨコハマヘリテイジ） 〒231-0012横浜市中区相生町3-61 泰生ビル405号  
TEL/FAX: 045-651-1730 E-mail: yh-info@yokohama-heritage.or.jp